

本を選ぶ

NO.495 2026年(令和8年)8月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>

本社 〒102-0084 東京都千代田区二番町 1-2-235 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>著者は誰でしょう？

再・著者は誰でしょう？ / 再々・著者は誰でしょう？ / コペル君のお正月

●大学教員ノート(第16回)

●北の公民館図書室から

●DM かたろぐ



ろん・ぼわん

再・著者は誰でしょう？

“コペル君は中学二年生です。

ほんとうの名は「ほんだじゅんいち」、コペル君というのはあだ名です。”

『君たちはどう生きるか』は、こんなくまえがき>で始まっています。ただし「」の中は、漢字です。

この書出しが、山本有三・吉野源三郎共著の版のものなのか、それとも吉野源三郎著の版のものなのか、それが気になるとおっしゃいますか？

仰せごもっともではありますが、私たちがこれまで見てきた同著は、どれも同じ文章で始まっています。それでは、「ほんだじゅんいち」に漢字をあてていただきましょう。

前回ご登場願った黒田一之さんのように、中学生の時にコペル君に出会って、深い感銘を受けた方ならば、わけなくおできでしょう。

図書館の方は、たとえまだお読みでなくとも、本の最初の頁を開けばすぐに正解が出ます。同著が借りられるのは、夏場に集中しているという情報を複数の図書館からいただいていますので、今なら棚にあるでしょうから。

“A館です。潤すと書く、本田潤一です。”

正解で一す。岩波文庫版でお確かめになりましたね。岩波文庫が底本としているのは、山本有三・吉野源三郎共著の昭和12年刊の初版本です。蛇足ながら、今年の2月号の『図書』によると、

同著は昨年の岩波文庫の「売れ行き良好書」ベスト3に入っています。

“B館です。もう正解をご存知なんですか。二番手になって残念！ 純粹の純で、本田純一だったんですね。”

正解で一す。新潮社版を、見ておられますね。初版は昭和44年？ それとも昭和31年？ じつのところ、どちらでも同じなのです。昭和44年版の「あとがき」で、吉野源二郎は、「(略)この本は、昭和三十一年版そのままのものです」と書き、版面もそっくりそのままです。これも余計なことながら、昭和44年初版も平成6年には38刷になっています。

潤一君が純一と改名したのは、昭和31年でした。以来、新潮社、ポプラ社、講談社とずっと本田純一の名前で出ているのですが、昭和57年に岩波書店から昔の名前で出ることになったという次第です。著者が一人になったのは昭和23年ですから、そのことがきっかけになったというわけではないでしょう。とはいえ、本家争い云々という話を聞かないのも不思議な感じがします。

図書館の方々を向こうにまわしてではいささか気が引けるのですが、ついですから、ほんのご参考までに各版の表記もご紹介しておきましょう。

“ほんとうの名は本田潤一” (岩波文庫)

“ほんとうの名はホンダ・ジュンイチ (本田潤一)” (新潮社昭和23年版)

“ほんとうの名は本田純一 (ホンダ・ジュンイチ)” (新潮社昭和31年版)

(編集部・まだまだつづく…)

No. 133 (1996年6月20日) 掲載

大学教員ノート 第16回

—送ることばと迎えることば—

石川 敬史

文芸文化学科の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。またこれまで皆さんを支えてくれたご家族の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。

振り返ってみますと、皆さんはこの文芸文化学科で、「読む」こと、「見る」こと、そして「考える」こと——これらの経験を重ねてくれたのではないのでしょうか。

さまざまな切り口で「読む」、さまざまな視点から「見る」、そして「考える」——例えば、作品に表現されている思想を「読む」。その時代の文化や背景を「見る」。そして考える。こうした営みの先にあるものの一つは、「人間を理解すること」なのかもしれません。

私たちは一人で生きているわけではありません。社会の中でさまざまな人と関わりながら生きています。一人の人間の背後には、多くの人の存在があることも忘れてはいけません。作品に描かれている人間の姿も、そのような関係の中に生きる人の姿です。そこには、喜びや希望だけでなく、葛藤や不安も描かれてきました。「読む」こと、「見る」こと、「考える」ことは、そうした社会の姿に目を向けることにもつながっているのではないのでしょうか。

社会がどのように変化してきたのか。今、世界では何が起きているのか。その中で、人はどのように生きてきたのか。そうしたことに思いを巡らせることでもあります。作品を読むこと、見ること、考えることは、他者の人生にそっと触れることでもあります。そして同時に、社会の中で生きる「自分」という存在を見つめ直すことでもあります。皆さんが文芸文化学科で重ねてくれた経験は、人間を理解し、さらには社会を理解しようとする歩みであったのだと思います。

今日、皆さんはこの学科を巣立っていきます。これから進む道はそれぞれ異なりますが、ここで培ってきた「読む力」と「見る力」は、これからの人生の中でも、きっと皆さんの支えとなってくれることでしょう。どうかこれからも、それぞれ

の日々の暮らしの中で、世界を見つめ、人間について考え続けていただければと思います。

以上で学科長の言葉といたします。本日はご卒業、誠におめでとうございます。

* * *

2026年3月19日、私が勤務する大学の卒業式、教育人文学部文芸文化学科「学科の集い」における言葉である。年1回とはいえ、頭のなかで考えていることを言語化するのは難しく、さらに当日は壇上にて緊張する。大学で「とき」を過ごし、多くを学び、成長してきた卒業生の豊かな表情と向きあう。そして、これから社会へ羽ばたいていく一人ひとりの可能性を思う。その一方で、教室後方に座られるご家族の皆様の視線が大いに気になる。

* * *

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そしてご家族のみなさまにも、心よりお祝い申し上げます。いま、みなさんの胸の中には期待と不安が入り混じっていることと思います。そのどちらも自然で大切な気持ちです。本日はこれからの大学生活に向けて、二つだけお伝えしたいことがあります。

一つ目は、一歩、あるいは半歩でも、前に進んでみることです。大学に入学し、みなさんは新しい環境に立っています。これまでとは違う学び、違う経験、そしてさまざまな人との出会いが待っています。もしかすると「自分にできるだろうか」と感じることもあるでしょう。けれどその一方で、「少し変わってみたい」「何かに挑戦してみたい」という思いも、きっとどこかにあるのではないのでしょうか。

大学は、誰かが何かを与えてくれる場所というよりも、自分で選び、そして自分で動いていくことで、学びが「かたち」になっていく場所です。

自分から動いた分だけ、大学生活はより自分自身のものになっていきます。ですから大きな一歩でなくてもかまいません。ほんの半歩でもいいのです——これまで手に取らなかった一冊の本を開いてみる。一見自分とは無縁に思える文化に触れてみる。隣の席の人に挨拶をしてみる。そんな小さな「半歩」が、やがて自分を支える大きな力となり、皆さんの世界を広げてくれます。どうか自分のペースで、一歩ずつ進んでいってください。

二つ目は、「ありがとう」という言葉を大切にすることです。文芸文化学科で学ぶ皆さんは、これから「言葉」の持つ力や、その背景にあるものを深く探究していくことになります。「ありがとう」という言葉。その語源をたどれば「有り難し」という意味に行き着きます。当たり前だと思える出会いや、誰かの優しさ——それは決して当然のことではなく、実は奇跡のような「有り難い」巡り合わせなのです。大学には、実にさまざまな学生が集まっています。そしてみなさんは今日から「十文字」という同じ屋根のもとで学ぶ仲間になりました。

授業の中で、あるいは日常の中で、困っている人がいたらそっと手を差し伸べてみてください。そして自分が支えられたときには「ありがとう」と言葉にして伝えてください。「わたし」という存在は、一人で成り立つものではなく、人との関わりの中で形づくられ、豊かになっていくものです。だからこそ、まわりの人への感謝を忘れずに、この「ありがとう」という言葉を大切にしてほしいと思います。この「ありがとう」の最後の二文字は「とう」——これは「十文字」の「十」（とう）でもありますね。本学の前理事長である故・十文字一夫先生が何より大切にされていた言葉でもあります。

一歩でも半歩でも前に進むこと。そして「ありがとう」という言葉を大切にすること。この二つをこれからの大学生活の中で思い出していただけたら嬉しく思います。

みなさん一人ひとりのこれからが、実り多いものになることを願って、私からの挨拶といたします。みなさま、ご入学おめでとうございます！

* * *

およそ2週間が過ぎた同年4月5日、私が勤務する大学の入学式、教育人文学部文芸文化学科「学科の集い」における言葉である。年1回とはいえ、頭のなかで考えていることを言語化するのは難しく、さらに当日は壇上にて緊張する。これまで高校で「とき」を過ごし、多くを学び、そして悩みながらも大学という世界へ飛び込む決断をした「高校4年生」ともいえる新入生の緊張や不安を抱える姿と向きあう。そんな決断をした背中を、そっと押すことができれば、という思いがある。その一方で、教室後方に座られるご家族の皆様の視線が大いに気になる。

* * *

本連載第11回「若葉マークの『ことば』」(No. 467, 2024年4月)、そして第13回「手紙—わたしとワタシの往復—」(No. 479, 2025年4月)にて綴った内容の続き——「送ることばと迎えることば」である。毎年、卒業式と入学式の「学科の集い」で言葉を伝えている。その間はわずか2週間という「とき」である。が、送り出される学生、そして迎えられる学生には、それぞれ異なる「とき」が流れている。卒業生にとっては、これまでの学びや出会いを振り返り、新たな一歩を踏み出していく節目の「とき」である。新入生にとっては、期待と不安を胸に、新たな世界の扉を開く「とき」である。

春という季節は、過ぎていく時間と新たに始まる時間が重なり合う季節である。同じ春のなかに、過ぎていく「とき」と、これから始まる「とき」が交差している。『とき』(谷川俊太郎・文／太田大八・絵／福音館書店／1984)には、「とき」は過ぎてゆくもので、後戻りすることも、止めることもできないと描かれている。だからこそ「送ることばと迎えることば」は、過ぎてきた「とき」を前向きに受け止め、新しい「とき」への希望をそっと灯すものでありたいと思う。

(いしかわ たかし：十文字学園女子大学)

北の公民館図書室から

—新人司書の奮闘—

鶴田 夏子

雑誌を増やしたい！

昨年まで、図書室で所蔵している雑誌は『ESSE』と『婦人公論』の2誌のみでした。図書室の利用者は女性が多く、ニーズにあった選書ではありません。けれども、どちらも女性向けの生活情報誌のため、別のジャンルの雑誌も揃えたいと日頃から考えていました。

図書室の書籍の多くが発行から10年経ち、特に専門分野においては情報のアップデートが求められているものの予算との兼ね合いで少しずつしか入れ替えることができません。雑誌を増やすことで蔵書の鮮度を上げたい、最新の知見に触れられる環境を整えたい、そして利用者層が広がるきっかけを作りたいという思いで、雑誌の受入数増加のために動き始めました。

次年度の予算決定は年明け、あと3か月というタイミングでした。12月までには受け入れる雑誌について上司と交渉し予算案を作成しなければなりません。高額な予算案は却下されることがあります。今まで購読していたものを含め、雑誌購入費用分として上限を年間5万円に設定しました。この予算が通れば翌年にまた追加しやすくなります。

まずは情報収集。近隣図書室の状況や雑誌の内容をチェックする日々がスタートしました。近隣の自治体にも似たような規模の公民館図書室があります。A町の公民館図書室は、生活情報誌を中心に6誌受け入れているようです。『NHK 趣味の園芸』や『すてきにハンドメイド』等の趣味に特化した雑誌や、『kodomoe』『Baby-mo』等の育児雑誌といった広い年代に需要のある雑誌です。B町の図書室は12誌とA町よりも多いようで『健康365』等の健康情報誌や『LDK』のような流行情報誌もあります。以前勤めていた東京都の地域図書館でも、『LDK』や『すてきにハンドメイド』は予約が何件も入るほど人気がありました。

これらも参考に今回追加したいジャンルを3つに絞りました。1つ目が「ビジネス・トレンド」、

2つ目が「趣味」、3つ目が「健康」です。

1つ目のビジネス情報を扱う雑誌は近隣の自治体にも所蔵が少なく、そしてタイミングよく「ビジネス・トレンド情報が得られる雑誌を入れてほしい」と利用者からの声もあったので、絶対に入れようと決めました。雑誌のオンライン書店「Fujisan.co.jp」のカテゴリ一覧からまずは「ビジネス・経済」をチェック。月刊誌であることと、多くの方に手に取ってもらいたいので専門知識がなくても読みすすめられる入門レベルの雑誌を選書の基準としました。なぜ週刊誌ではなく月刊誌に限定したかというと、予算問題もさることながら発注した本が届くまでの時間が大きく関係しています。図書室で発注した本や雑誌は発注先である町外の業者からの直接搬入のため、ある程度冊数がまとまったタイミングで届けられます。週刊誌の発行頻度に合わせると搬入回数が増え業者の負担増となってしまうため発売から少し日が経っても大きな問題がない月刊誌に限定し検討することにしました。ところがこのジャンルは週刊誌の人気が高いようです。なかでも『日経ビジネス』は、日本で一番読まれているといわれるビジネス雑誌でABC部数は約12万部、まさに利用者からリクエストがあった雑誌でした。購入したいのですが週刊誌のため泣く泣く除外し、次年度以降の目標とします。今回は見送った『日経ビジネス』ですが選書の良いヒントになりました。発行元の日経BPは様々な人気雑誌を発行しています。その中で『日経トレンディ』『日経マネー』『日経エンタテインメント!』は、どれも月刊誌で購入費用も年間1万円以内に収まります。実際に3誌を比較し最終的に『日経トレンディ』を選びました。ビジネスのヒントやマーケティングの視点を取り入れた流行情報誌です。商品やサービスの最新情報、NISA等の生活に役立つマネー情報もあり図書室の蔵書の足りない部分を補えるバランスの取れた内容です。

1誌決まり、滑り出しは順調。2つ目は「趣味」系雑誌。これがなかなか苦戦します・・・。(つづく)

(つるた なつこ：公民館図書室)

再々・著者は誰でしょう？

『君たちはどう生きるか』の主人公コペル君は中学二年生です。コペル君が読者にお目見えしたのは昭和12年ですが、当時は尋常小学校の6年間が義務教育で、中学校は五年制でしたから、二年生というのは、一番のんびりと楽しい時期だったのでしょう。

お若い方はご存知ないかもしれませんが、昭和12年当時、年齢は「数え年」で言い表していました。「数え年」では生まれたその日から1歳で、1月1日には全国民一斉に1歳年を重ねます。誕生日がきても年をとることはありませんが、その年の1月1日から4月1日までに生まれると早生まれ、それ以後生まれると遅生まれといい、4月に尋常小学校にあがるのは遅生まれの9歳と早生まれの8歳でした。これでいくと中学二年生は、15歳と16歳になります。

山本有三・吉野源三郎共著で昭和12年8月に出た初版では、コペル君の「年は十五」です。

昭和12年といえば、7月に盧溝橋で日中両軍が衝突し、あの太平洋戦争へと動きはじめたともいえる年です。だからこそ、コペル君と同年代の多くの黒田一之少年の柔らかない心に、それまで読んでいた本からは得られなかった感動を呼び起こしたのでしょう。そして、終戦。『君たちはどう生きるか』は昭和23年10月に、今度は吉野源三郎著として再び登場します。「ガラリーと一変した今日の時

勢に、十年前の少年たちの生活を書いたこのもの語りを、そのまゝ差し出すのはどうか、一じつは、その点に不安を感じたのですが、改めて読みかえして見て、今日と十年前との違いようがはっきりしているだけに、かえってその心配はいらないのではないかと考えました」。それで、「内容には手を加えずに」、「文字の使い方を今日の標準にしたがって改めました」。前書きでこう言っているのは、昭和21年の内閣告示「現代かなづかい」に拠って、俗に言う旧かなづかいを新かなづかいに改めたことを指していると思われます。その後、昭和31年には判型も変えて三たびの登場、現在にいたっています。

「こんど三度めの版を出すにあたって、いま読んでおかしくないように、中の記事を書きなおしたり、思いきって短くしたり、だいた手を入れました。」と前書きにあるので、興味深い読み比べになりそうです。

手始めというほどでもありませんが、ここでコペル君の年は「十五」から「十四」に変わっています。コペル君の年齢については、昭和25年1月1日に施行された数え年によって年齢を言い表す従来のならわしを改める「年齢のとなえ方に関する法律」に準じて、数え年だったのを満年齢で言い表したと考えるべきでしょう。

尚この法律を読んで驚いたのですが、年齢を満で計算する「年齢計算に関する法律」は、昭和25年の時点から数えても更に50年ほど遡る明治35年、つまり今からかれこれ100年近くも昔に施行されていたのでした。(編集部・さらにつづく・・・)

No. 137 (1996年10月20日) 掲載



新潮社
山本有三・吉野源三郎 著
(写真は初版本ケース)
昭和12年8月10日発行



新潮社
吉野源三郎 著
(新編・日本少国民文庫6)
昭和31年6月20日発行



新潮社
吉野源三郎 著
昭和44年12月15日発行



岩波書店 (岩波文庫)
吉野源三郎 著
昭和57年11月16日発行

コペル君のお正月

1937年（昭和12年）に出た『君たちはどう生きるか』の主人公コペル君は、正月の5日、“大きな門松が軒並に並んでいる邸町を”通り、“品川の海を見晴らかす高輪の”高台にある水谷君の家に着きました。太い門柱の前には、“大人の背よりも高い松飾り”が“儀仗兵のように捧げ銃をして立ってゐます”。絨毯のしいてある曲がりくねった暗い廊下を書生に案内されて部屋に着くと、“黄色いスウェーター”を着て、“断髪にした”17、18歳の水谷君の姉さんが、コペル君におめでとうと挨拶します。

“おめでとう”とコペル君も答へましたが、さう答へながらもコペル君は、オヤメッと思ひました。水谷君の姉さんは女の癖に、コペル君たちと同じやうに、スポンをはいてゐるのです。しかし、コペル君が不思議さうな顔をして見てゐることなんか、一向に平気な様子で、お嬢さんは、つづけて話しかけました。”

引用が長くなりましたので、話を変えます。岩波文庫が今年創刊70周年を迎えるのを記念して、各界を代表する人々に、今なお心に残る、他の人々に勧めたい同文庫を3冊選んで、短評をつけることを依頼し、寄せられた268通の回答を掲載した『図書』の臨時増刊号が昨12月に出ました。それによると、大城立裕、椎名誠、壽岳章子、矢島翠の4氏が『君たちはどう生きるか』を挙げています。それも3冊中の最初の1冊に、そのうえありがたいことに、4氏それぞれ示唆に富んだコメントをつけておいでです。

大城氏曰く、“中学に入つてまもなく『少国民文庫』（新潮社）の一冊で読んだが、人間と社会との仕組みを教え、眼から鱗が落ちるとはこのことか、という感じを受けたことを憶えている。”

“『日本少国民文庫』に収められていた今から五十数年前に、少年少女の心をゆさぶった本”と言うのは壽岳氏で、氏は大正13年生まれ、大城氏は

大正14年生まれ、この稿おなじみの黒田一之さん共々、ここ1年あまり同書にかかわってきた私たちがコペル君とお呼びしたいほどの方々です。

矢島氏は昭和7年生まれ。コペル君との出会いは、“『日本少国民文庫』で小学生のとき読み、コペル君とともに不安をとまなうめざめを感じた忘れられない本。”とのこと。小学生といつても多分高学年でしようから、大東亜戦争開戦間近から真つ最中の頃に読んだということでしょうか。

しかしながら、なんと言つても秀逸なのは椎名氏です。昭和19年生まれ、上記3氏と比べて戦後派と言えなくもない椎名氏曰く、“我々ぐらいまでであろうか。当時の少年たちは、けっこう力をこめてこの本を読んだ。コペル君のネーミングがおもしろくて、いろいろな面で影響を受けた。”

どうやら、大城、壽岳、矢島の3氏にとって、『君たちはどう生きるか』の世界は、人間と社会の仕組みについては、目鱗であり、描かれている暮らしは、当時の、「今」のものであつた、そして椎名氏にとつても命題は、まだまだ新鮮で、暮らしの描写は、ちょっと前のそれとしての現実感があつたと言えそうです。

大城、壽岳、矢島の3氏が読んだのは、山本有三・吉野源三郎共著の分でしょう。昭和19年生まれの椎名氏が読んだ版は、①共著分、②吉野源三郎著の昭和23年版、③吉野源三郎著の昭和31年版の三つ（いずれも新潮社）のどれかでしょう。

ここで昭和12年の1月5日に戻ると、17、18歳で断髪、正月だというのにセーターにズボンの水谷君の姉さんを、コペル君は“女の癖に”と思っています。ところが、吉野源三郎著に変わった昭和23年以降の版を読むと、表記という点からはいわゆる新かなづかいに統一した以外にも、カド松、松かざり、儀じょう兵、さゝげつゝ、黄いろい、など言葉によってまぜ書きに変えていますし、内容も時代の波にあらわれてか、“さう答へながらもコペル君は、オヤメッと思ひました。水谷君の姉さんは女の癖に、コペル君たちと同じやうに、ズボンをはいてゐるのです。しかし、コペル君が不思議さうな顔をして見てゐることなんか、一向に平気な様子で”はすっぱり削られてい

シリーズ

第五巻 (第一回刊行)

声と音楽の映画史

柴田康太郎 [編]

サイレントからトーキーへ。戦前の日本映画史上の一大変革期を、第一線の研究者や実演家が多角的かつ子細に描く。

六八二〇円

続刊予定

編集委員 小川佐和子 (北海道大学) 柴田康太郎 (東京大学・志村三代子 (日本大学)

第一巻 (第三回刊行) 映画の渡来と伝播

第二巻 (第五回刊行) 戦前日本映画のインフラ

第三巻 (第二回刊行) 第一次世界大戦とメディア・イメージ

第四巻 (第四回刊行) モダンガールの光と影

第五巻 (第六回刊行) 映画と大衆文化

第六巻 (第七回刊行) 日本の初期アニメーション文化

森話社

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-15-6
Tel. 03-3292-2636 / Fax. 03-3292-2638
http://www.shinwasha.com

K. レノン、R. アルソップ / 本山央子 訳

ジェンダー理論

差別と分断に抗う知のフレーム 基本から最前線まで。 3850円



西岡文彦

狂熱のパレット

激闘するゴッホとゴーガン まったく新しい美術教養書 登場! 3300円



勁草書房

TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 https://www.keisoshobo.co.jp

シリーズ累計
10万部超の『英文詳説世界史』に
待望の対訳本がついに登場!

英語入門者にやさしく、

世界史の学び直し

+ 英語力アップ
に最適!日英対訳
詳説
世界史Bilingual
WORLD HISTORY
Volume 1, 2

橋本 悠 岸本美緒 小松久男 水島 司 監修

定価 各 3300円 [本体 3000円 + 税10%]

山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13 https://www.yamakawa.co.jp/

君主制原理

その生成、終焉、
そして遺産

長谷部恭男 著

君主制は存在し、君主は現前する。一時代を画した君主制原理を繙き、その現代的存在を明らかにしながら、主権論と天皇制の将来を展望する憲法思想史の試み。

A5判 定価6,050円

君主制
原理その生成、終焉、
そして遺産主権論と天皇制の
将来を展望する
憲法思想史の試み

長谷部恭男



有斐閣

東京都千代田区神田神保町2-17
https://www.yuhikaku.co.jp/価格は
税込

Asian Wind

- アジアと日本、そして世界を繋ぐ「風」のように -
NO.5 2026 Summer

— Asian Wind —

■インドの古典音楽の教育と伝統の継承

■アジア美食館 モモ(ネパール)

■北京物語 北京・八大胡同

■上海便り

■W杯日本代表応援は「漢奸」?

■アジアの本棚

■『この世界からは出ていくけれど』

■台湾の建造物 築港地の選択

■イランの世界遺産

— 亞洲之風 —

■印度古典音楽的

教育と伝統の传承

■日本美食館 氷鎮拉面

■日語教育探究

接納外国人と商务日語教育

■日本の书架《蟹工船》

■東京慢歩

■伊朗世界遺産

一般財団法人 霞山会 (文化事業部)

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-1-7 4-7

電話: 03-5575-6301 / FAX: 03-5575-6306

https://www.kazankai.org/

この世界は
こんなに
ふしぎで
おもしろい!

こどもの眼
おとなの頭

数理にあそぶ
スタンフォード大学教授
時枝 正

9月下旬
刊行

ゴリラ研究者
山極寿一
氏
推薦!

こどもの眼で眺めると
おどろきに満ちたこの
世界は、おとなの頭で
解きあかせばもつとふ
しぎ。数理をあやつって
世界を楽しむ達人が
綴る珠玉の24話。

■定価2200円(税込) / B5判
ISBN978-4-535-78787-5



日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 https://www.nippony.co.jp